

(様式1)

令和6年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立本所中学校
校長名	齊藤 伸治

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">1年生全教科を見ると、目標値を上回っているのは国語、数学、理科、英語 [A]、同等なのは社会である。2年生全教科を見ると、目標値を上回っているのは国語、数学、英語 [A]、同等なのは社会 [地理] [歴史]、理科である。3年生全教科を見ると、目標値を上回っているのは国語、英語 [A]、同等なのは社会 [地理] [歴史]、数学、理科である。	<ul style="list-style-type: none">全て目標値より上ではあるが社会に力を入れて伸張させたい。同じく目標値を下回っている教科はないものの、社会と理科に力を入れ生徒の力を伸ばしていきたい。目標値と同等な教科が国語、社会、理科と学習内容も難しくなってきたとも考えられるが、特に数学については習熟度別学級編成に加え、補習や自学ソフトの活用で力を付けたい。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">1 学年は学級の規範意識がずば抜けて高いが、墨田区としても高いレベルにある。また、全国を下回っているのは「学習習慣」と「先生のささえ」「充実感と向上心」であった。2 学年は全国と比較するとプラス方向にあるのが、「学級の規範意識」「いじめのサイン」「生活習慣、」ややプラスが「学習意欲」「成功体験と自信」「感動体験」「思いやり」「発信力」、ややマイナス方向にあるのが「学習習慣」「家族のささえ」「他者からの評価」「対話・話し合い」「社会参画」「学級の絆」「対人ストレス」があげられる。3 学年は多くの項目で全国平均を上回っている。飛び抜けているのは「学級の規範意識」であるが、その他の項目もまずまず全国平均を上回っている。わずかながら全国平均を下回っているのが、「学級の絆」であることがデータから読み取れた。	<ul style="list-style-type: none">中学校へと進学し、戸惑っている様子が感じられる。「先生のささえ」については入学して間もないこともあり、現状は良いレベルにあると考える。データの多くが全国平均の線付近であることから様々な心配要因があるが、なかでも「家族のささえ」の落ち込みは気になるところであり、進路や自立に向けて親子が対話できるような働きかけていく必要性を感じる。本校で唯一5学級あることから、仲の良い友人が散ってしまっていることなどが考えられる。反面多くの項目でまずまず平均を上回っていることから進級時の学級編成などうまく采配できたのではないかと考えられる。秋の合唱コンクールなどで卒業に向け絆を

	強固なものとしたい。
--	------------

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 「全国学力・学習状況調査」において <国語>0点の生徒こそいないが全体的に文や図の読解を不得手としていることがわかった。また、短歌の読み取りについても苦手としていることがわかった。 <数学>知識・理解に関する平均正答率が70.7と高い反面、思考・判断・表現に関する問題に対して全国的にはあるが41.2と極端に落ち込む。記述式問題や図形問題を苦手とし、関数やデータの活用問題も数字が低い。正答数分布グラフにおいても0~1問の回答に終わった生徒がやや多いことがわかった。 基礎確認テストにおいて、3年間の中でテストの形態に慣れて受験期を迎えることができる。 本校で実施している朝学習において、自然な形で学習に取り組み、学習に向かう気持ちを整えた上で一日の学習をスタートできている。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記の通り「読む力」が不足していると考えられる。本を読む習慣を身に付けること。文章の中からその情景や人物などの気持ちが読み取れるよう意識させたい。 記述式問題そして図形に関する問題が苦手であることが今回の結果から明確にわかったので数学科とも情報共有し、「わからない」を無くしていく。 学年ごとに適切な実施回数を検討していく。 曜日ごとに固定で5教科の学習に取り組み、きちんと積み重ね学習ができています。反面難しいと感じている生徒に対しては支援が十分ではないと感じる。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 主体的・対話的で深い学びの実践

生徒が主体的かつ意欲的に学習活動に取り組むことができるような課題を提示し、生徒が感動する授業展開を目指すことで、学習へのモチベーションを高める工夫をしている。さらに、学習内容に関するグループワーク等の生き生きとした言語活動により、生徒同士の協働や教職員との対話を増やし、コミュニケーション能力を効果的に向上させている。また、これらの取組により自己の考えを広げるようにするとともに、学習過程での気付きや疑問を授業内で共有し、深化させることで、深い学びへ結び付けられるような場面の設定を行っている。

(2) 個別最適化学習と協働学習の推進

個別最適化学習や協働的な学習を効果的に取り入れるなど、「指導の個別化」や「学習の個性化」といった授業改革を更に進めている。具体的には、一人一台端末のソフトを利活用し、生徒の能

力や興味・関心に応じて主体的に学習する方法を選択したり、A I 型教材を活用して生徒一人一人の学習の進捗や理解度に合わせて学習内容を調整したり、その生徒に合った学ぶ機会を広く提供することで学習内容の定着を図っている。また、ロイロノート等を活用し、調べ学習、意見交換や発表活動等の協働的な学習の場を意図的に設定するようにしている。

(3) コーチングによる学習展開

コーチングの三原則「インタラクティブ(双方向性)」「オンボーイング(現在進行形)」「テーラメイト(個別対応)」を核として、各教科の特性を踏まえた授業の展開を年に3回程度盛り込んでいく。これによりこれまでの詰め込み型の授業から、各自がテーマに沿った自発的な学びが展開され、これからの時代に必要な変化に対応できる素地を生徒個々の中に培わせる。各授業者の工夫と計画、そして授業の組み立てにより、生徒に「新しい気づき」をもたらし、「視点」を増やし、「考え方や行動の選択肢」を増やし、「目標達成に必要な行動」を促進する。

(4) 朝学習

月曜日～金曜日まで、朝8:25～8:35の時間帯を用いて主に5教科の学習に取り組んでいる。この活動を行うことで、一日を良い形でスタートでき、6時間の授業を脳が覚醒した状態で授業を受けることができる。脳が効率よく働く時間帯であることからやる気や集中力が高まり、効率よく勉強に取り組むことができる。また、既習内容について取り組むので、振り返りにもなり、全生徒が実質的に復習をしていることになる。

(5) 基礎確認テストの全学年実施

一般的には3学年の受験期に実施することの多い模試を、全学年で基礎確認テストを実施している。生徒は定期的に自分自身の実力を学内に限定せず、計ることができる。また、自身に足りない箇所について見つめ直すことができることから、次の一手としてデータから自ら手当てをし、補う学習につなげることができる。集団でのテストに緊張せず受験できるようになり、同じ形式のテストにおいて実力を発揮することができる。

3 「令和7年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・令和7年度の墨田区学習状況調査において、全教科の平均正答率が目標値を上回るようにする。
- ・令和7年度の墨田区学習状況調査の i-check において、生活・学習習慣に関するすべての質問項目で、全国値と同等程度もしくはそれを上回るようにする。
- ・令和7年度の墨田区学習状況調査の観点別正答率において思考・判断・表現の正答率が、全教科で目標値を上回るようにする。